

2011年3月11日、東日本はM9.0の大地震と大津波、原発事故に襲われ、未曾有の大災害を受けました。8月には南畿地方で記録破りの集中豪雨に見舞われ、改めて国土の安心安全確保の大切さを考えさせられた1年です。

自然の性質、振る舞いを要素に分解して理解し、科学・技術を発展させ、巨大な文明社会を築いた「要素還元主義思考」ですが、その構成する要素の全てを理解できたかのような思い上がりの間隙を突かれて、私たちは自然から手痛い反撃を受け、多くの人々に科学や技術の進歩に対して疑問、不信を生じさせ、安全神話の崩壊へと繋がりました。

土木技術は、「全体とは部分の総和以上の何かである（アリストテレス）」ことが思考の根底にあり、自然の振る舞いの未知の部分を想定し、全体を見失わない考え方（ホーリズム）で、知識経験を蓄積してきた技術であると思っています。

国土再生、災害復興に当たっては、まさに土木技術の特徴であるホーリズム、総括論的解決思考が求められます。安心して暮らせる国土復興の一翼を担うべく私たち建設コンサルタントも全力を傾注するときと考えています。

地域づくり国づくりに少しでもお役に立ちたいと願い、今年も「note kaihatsu koei」を発行しました。業務の参考にご使用していただければ幸いです。